

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870102001		
法人名	有限会社エリア・ネットワークサービス		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	〒310-0913 水戸市見川町丹下一ノ牧2131-1303		
自己評価作成日	令和 2年 4 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870102001-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりの意思を尊重し寄り添いながら安心して生活が送れるよう努めている。リハビリスタッフによる個別機能訓練の実施があり、認知症の進行予防の他に身体機能の低下予防に努めている。デイサービス・ショートステイの利用者様と合同の行事参加だけでなく、定期的にリハビリ体操や音楽教室に参加をし交流している。天気の良い日は外のベンチで外気浴を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、商業地域にありながら広い敷地を有し庭には花壇の他に樹木も多く、ミカンや柿の木があり収穫もできるので、庭に設置されているベンチで飼っている犬に癒されながら、四季を感じ外気欲を楽しむ事ができる。事業所の裏はテニスコートと隣接している為、遠くからでも練習風景が見られコロナ感染予防で外出出来ない中、地域の中での生活感を味わうことができる。敷地内には同法人のデイサービスやショートステイが併設されている為、行事等は合同で開催する事ができるほか、機械浴等も利用できる。管理者と職員は笑顔で利用者に接し、利用者が明るく笑顔で過ごせるよう理念に基づいたケアサービスを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務の内容を指導する際に、理念と重ねて理解してる事を確認しながら話をするようにしている。	法人設立時に設定された法人の基本理念を事業所の理念としている。理念のとおり「明るく笑顔の絶えない」ケアサービスを実践するには、職員同士の情報交換を密にしてのコミュニケーションが大切と考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	全体行事開催時、民生委員や近隣の方々を招待しています。また、水戸マラソン大会当日は、入居者様と沿道で応援をしています。また、地域の祭りに参加している。	様々なボランティアを受け入れるとともに、事業所主催の祭りに近隣住民を招待したり地域の夏祭りに参加している。中学校の職場体験受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、近隣の方との食事会、地区の中学校の実習の受け入れ時、施設見により、生活の状況を見ていただき、認知症という疾患の理解・対応の仕方を説明し、地域でサポートの重要性を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施しています。入居状況・行事予定など報告し、会議内で出た問題など早期に解決出来るように取り組んでいます。民生委員の方からは近隣の情報など聞かせて頂いている。	家族等の代表や市職員、民生委員等が参加して定期的に開催している。家族等は毎年変更し同じ人にならないよう工夫している。行政より感染症の状況や対策などの話があり、参考にしている。	民生委員が欠席になると、地域住民の参加者がいなくなる為、地域住民のメンバーを増やすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に出席依頼し参加して頂いています。行政からの意見や対策など情報を教えて頂き、情報交換を行っている。	空き情報をFAXで周知し、困った事はその都度電話で相談している。グループホーム協議会の講習会に参加している。市町村職員が運営推進会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が道路に面しているため、ご家族様の理解を頂き、玄関はオートロックになっています。外出を希望する入居者様には、職員と一緒に付き添いをしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、担当者が外部研修を受け、職員会議時に内部研修を行って伝達している。敷地内の他事業所と合同で勉強会を行っている。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備えて書類を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修受講後、身体拘束委員会で研修内容を報告し、話し合い等行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだ事を必要に応じて関係者と話し合いを行い、活用できるように支援出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に入居者様とご家族様に契約内容の説明を行い、不安や疑問に関しては、ご理解・納得・安心して頂けるよう、時間をかけて説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。ご家族様の面会時や行事参加時など気軽に意見が言える関係性を心掛けています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の相談や苦情相談受付窓口を明示するとともに、玄関に意見箱を設置している。面会時や行事に参加するときなどに話を聴き、意見を聴きだす工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理会議や職員会議で代表者が参加していただき、職員の意見や要望を伝える機会があります。反映出来る内容については、早期に対応している。	普段から何でも話せる関係が築かれている。職員から入浴の際に浴室に入る時段差があるので、車椅子利用者は危険で介助も大変なので段差をなくして欲しいとの要望があり法人に申請した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時は、職員の希望の休日を確認し作成すると共に、体調管理の為、長い日数の勤務をなるべく無くし調整しながら作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに合った外部研修受講や毎月の職員会議内で、職員研修・勉強会等を行っています。会議に参加できない職員も後日職員研修・勉強会等を受け、全職員の共通知識となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービス・ショートステイが併設されている為、合同の行事を開催するなど、職員だけではなく、入居者様も交流をする機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面談し、これまでの暮らしや好きな事・好まない事。出来る事・出来なくなってしまった事など伺い、入居後も不安なく生活出来るよう寄り添い、話を傾聴するようにしてる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受けた時からご家族様が困っている事や不安に感じている事を聞き、一緒に解決出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて地域包括など公的機関と連携し、少しでも安心して頂けるようサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前のアセスメントをもとにその方らしく過ごして頂けるよう、本人の意思を確認しながら、出来る範囲でのお手伝いや作業などして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族様も招待し一緒に楽しい時間を過ごして頂いている。また、面会に来所された際には、近況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員から馴染みの方に連絡はとっておらず、ご自宅に外出や外泊にされた時に馴染みの方にお会いして関係を築いている。	入居前の聴き取りや面会に来た際関係を聴き記録し、職員間で周知している。利用者の思いを家族等に伝え家族等が同行して外出、買い物や外食に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーションや行事などを通し関わり合いを深め、体調が悪く受診・入院され戻られると「おかせなさい。」と、笑顔で迎え心配され、家族のような心温まる場面が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により病院へ入院、その他の施設へ入所された方などに入所中のご本人の状況を伝えたり家族からの相談やご様子までの経過を説明するなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等において日々の支援の中で気になる点、注意しなければならない点について話し合い、全職員で支援する事を統一し、入居者様の会話の中で要望等を聞き出し、本人本位の支援に努めている。	入居時の聴き取りで知りえた事を記録に残し、日々のケアを通じて知りえたことも職員で共有して本人の希望や要望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の際にご本人・ご家族様から聞き取り、自宅・施設に訪問し生活環境やサービス利用の経緯の把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定・申し送りや日々の記録から、入居者様の心身状態が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族様の意見・要望をお聞きした上で、毎月のカンファレンスを通し意見交換、モニタリングを行い、介護計画書を作成している。サービス内容に変更があった場合、現状に即した介護計画書を作成しご家族様へ説明をする。	家族等の意向を聴き、医師の意見を取り入れて職員間で話し合いをして計画を作成している。家族等には現在は感染症対策のため電話で確認を取っている。3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個別記録に記入している。月一のカンファレンスにて職員からの情報をもとに介護計画の見直しを図り、追加または、変更がある場合は介護計画書を作成する。入居者様に合ったより良いサービスを提供出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様おひとりにつき、週2回程度リハビリスタッフによる個別機能訓練を実施しており、身体機能の低下を予防し、自立支援を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事会に近隣の方を招待したり、地区内の中学校のボランティア受け入れを行っています。また、地域の祭りへの参加も毎年恒例となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月協力病院の受診を、ご家族様に変わり受診し、身体状況・日常生活の様子などを医師に伝える事がかかりつけ医との関係を築いている。ご家族様に受診して頂く場合は、身体状況・日常生活の様子を伝え、受診して頂いている。	協力医療機関には月1回受診に行っている。家族等が付き添えない場合には職員が付き添っている。医師には状況を口頭で伝えているが、特に変化がある場合には現在の状態を書いたメモを渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師がいる為、日常生活において、細かな異常や異変に気付いた時は、報告をして診て頂いている。また、定期受診では、かかりつけ医やご家族様に相談しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	指定医が医療機関と連携している。入退院時の付き添いも行っている。入院時には定期的に様子を伺い、医療関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては看取りはしない方向である旨入居時にご家族様に説明している入居者・ご家族様等の希望に沿った支援を心掛けている。かかりつけ医と相談し医療機関と連携を図りながら希望に添えるよう支援している。	「重度化・終末期に向けての介護と入院措置等について」の同意書がある。看取りは行わない事業所である。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置している。緊急連絡網を分かりやすい場所に掲示し、緊急時に備えて実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所で防火訓練・放水訓練・水消火器による消火訓練など実施している。備品リストを作成し備蓄品の管理を行っている。	利用者が参加しない職員だけの避難訓練を年1回しか実施していない。訓練の記録を残すまでには至っていない。近隣住民へは協力の呼びかけを行っている。	避難訓練を利用者参加の下、年2回は実施して内1回は夜間想定を実施し、反省会を行い実施記録を基に次回に向けた課題を検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面に応じ言葉の大きさなどに注意し、入居者様のプライバシーや尊厳を大切にすると同時に否定しない対応を心掛けている。	利用者のプライバシーや尊厳を大切に、否定せず無理強いない対応を心掛けている。個人情報と肖像権に関する同意書を整備している。人権尊重や守秘義務について内部研修を年1回行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事を行う際など、入居者様の食べたい物を聞き、提供するよう努めている。レクリエーションや作業等は強制せず、無理の無い範囲で選んで頂いている。声掛けする際に、自己決定出来るようにさりげない言葉掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『その人らしく過ごせる』がホームの理念になっている。入居者様の思いを大切に、自己表現を促すよう声掛けに注意している。また、その日の体調や希望により、時間配分やサービス提供の見直しをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を優先し、清潔保持に努めている。ご自身で出来ない入居者様には、職員が身だしなみを整えている。出張美容室でカット以外にもパーマや白髪染めも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	合同の行事ではバイキングや季節のお弁当をご家族様と一緒に楽しみながら召し上げられ、昼食時は職員も一緒に会話を楽しみながら食事を摂っている。	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。自家菜園で採れた野菜等を食材にしたり、代替食を提供している。お弁当を注文したり、ホットケーキを焼くなど、食が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事量・水分量・服薬チェックなど、毎日記録をつけ一日を通じて確保出来るよう管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、入歯使用者には毎晩入歯洗浄剤で消毒を行っているが、自分で出来ない入居者様には職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の生活リズムに合わせて声掛けやトイレ誘導をし、トイレ内で排泄する事を大切と考えている。ひとりひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、昼間は全員トイレでの排泄に努め夜間でも極力トイレでの排泄を支援している。入居時にはおむつやパットのサイズの見直しをして失禁を減らす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し1人1人の状態を把握するよう心掛けている。日頃より水分摂取を促し、便秘時は腹部マッサージなどを行っている。排泄管理表をつくり、状況確認に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入居者様の希望を伺いながら入浴出来るように支援していく。入居者様の身体状況に合わせて機械浴を使用し対応している。	入浴は基本週2回としている。季節を楽しむためにゆず湯を実施している。入浴を拒む利用者には時間や声をかける職員を替えたり、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の個々の生活習慣や睡眠状態に合わせて昼寝や休息時間を設け、休んで頂いている。天気の良い日は布団を干し清潔保持し、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人に薬情をファイルしいつでも確認出来るようになっている。服薬時は2人で確認し服薬している。大きな症状変化は看護師に報告やかかりつけ医に相談し迅速に対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやリハビリ体操・音楽教室等開催時は声掛けし、希望にて参加。日々の生活の中で洗濯たたみなど1人1人にあった役割や生きがい・喜びなど楽しく生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や日光浴の他お花見ドライブに出掛けている。年末年始お盆・定期的にご家族様と外出出来るように支援している。	事業所で飼っている犬と一緒に事業所敷地内を散歩したり外のベンチで外気浴をしている。護国神社に初詣、大洗の海を見てアイスを食べるなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持っている入居様はおらず、立替制度を導入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に合わせて、電話を掛けて話をして頂いている。個々に配達される郵便物や荷物などは状況に応じてご家族様に連絡してから本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内にゆっくり寛げるようソファを設置しているキッチン是对面式になっており、職員・入居者様双方ともよく見える事が出来、安全面にも配慮した構造になっている。トイレ・浴室には手すりを設置している。	共有空間は開放的で扇風機なども設置して換気に留意し、時計やカレンダーを飾り時間を意識した支援をしている。居間兼食堂には、食事や作業のテーブルの他に、観葉植物や花が置かれたテーブルがあり、椅子も設置されていて利用者の寛ぎの場所となっている。壁面には絵画や職員と利用者で作成した大きな作品が飾られている他、手すりが設置されていて、居間で歩行訓練ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内ひとりひとりの場所があり、普段定位置に座ることが多くある。レクリエーションの時など、隣に座った入居者様同士でお話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの物をお持ち頂き、居室を自由に使用して頂いている。ご家族様との写真やなど飾っている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、整理筆筒等が備え付けられている。管理者は危険物以外使い慣れた物を持ち込むように説明している。利用者はそれぞれに寝具や衣装ケース、家族等の写真を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は平らにになっている為安全に生活出来ます。普段の会話の中から、出来る事・やりたい事が実践出来るよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあしたば

作成日 令和2年11月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の年2回の実施が行われていない。	年2回の避難訓練実施を行い、内1回は夜間想定した避難訓練を行う。	防災委員会の職員と連携を図りながら、定期的に訓練を行い、災害が起きた際に安全・スムーズに避難できるように訓練を行っていく。	3ヶ月
2	4	運営推進会議の参加メンバーが少ない。	運営会議参加メンバーを増やし、地域の中にある事業所で事を理解して頂く。	自治会だけではなく、商業施設などの方にも運営推進会議の参加依頼の声掛けの範囲を広げ、事業を知って頂くだけではなく、地域の情報交換が出来る会議を行って	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。